

令和7年度第4回「知事と一緒に生き生きトーク」発言要旨

- 1 テーマ：若い世代の結婚や子育て、仕事との両立に関する不安の解消・将来設計支援
- 2 日時：令和7年10月5日（日）13:30～15:10
- 3 場所：岡山県生涯学習センター（岡山市北区伊島町3丁目1-1）
- 4 参加者：子育て家庭留学受入家庭（先輩ママパパ）、参加者（学生、夫婦）
- 5 発言内容等

【先輩ママパパキャリアヒストリー】

- ・ 結婚当初のライフプランとは異なり、不妊治療を経験した。この時、夫婦で価値観をすり合わせ、当初のライフデザインを修正する重要性を学んだ。精神的・金銭的負担はあったが、夫婦の絆を深めることができた。長女が生まれるまではキャリア優先だったが、これを機に、キャリアだけでなくライフ（家庭）の重要性を実感した。夫婦フルタイム共働きとなってからは、家事・育児の「五分五分」の分担を意識し、乗り越えてきた。夫は、長女の際は「育児を手伝う」意識だったが、双子誕生時の1年間の育休で、「育児の当事者意識」を持つに至った。この経験が、いろいろな事情を抱える人への理解や自身のキャリアに活かしている。
- ・ 大学2年生の時、SNSがきっかけで子育て家庭留学に参加した。留学先は二人の子どもがいる共働き家庭で、初めて自分の家庭以外の家族の日常に深く入り込む経験をした。子育ては体力勝負であることや子どもの可愛さに気づくとともに、「子どもは欲しい時に授けられるものではない」という現実や、不妊治療の苦勞、仕事への影響など、具体的なエピソードから子育ての多面性を学んだ。この経験は、将来の家庭像を具体的にイメージするきっかけとなり、現在の子育てにポジティブな影響を与えている。

【子育て家庭留学参加動機・感想など】

（留学生）

- ・ 「この人となら子育てできる」と思える具体的なパートナー像の不明瞭さを解消したくて参加した。留学先は幼稚園教諭の夫と小学校教諭の妻の家庭で、「子育てにはお金と同じくらい時間が重要」だと感じた。この経験は、就職活動で福利厚生的重要性を再認識するきっかけにもなった。ご夫婦の良好な関係性を見て、これまで漠然としていたパートナー像が具体化され、参加して良かったと感じた。
- ・ 子どもの可愛さに気づき、以前は面倒と感ずることもあったはずらに対しても「対等な目線で立つ」ことの重要性を学び、これまでの接し方を反省した。夫婦二人で育児にかかわることが大切で、日本の企業もそうした夫婦を支援する体制を整えるべきだと思った。
- ・ 結婚やお金、子育ての価値観が概ね一致していたため、結婚を決断。周囲に子育て経験者がおらず不安だったため、妻の妊娠中に参加した。「育休中より復職後が大変」というアドバイスが最も印象的だった。復職後は子どもとの関わりが減り、成長に追いつけず「浦島太郎状態」を経験し、妻をいらだたせることもあった。しかし、「なるようになる」というアドバイスもあり、不安を感じつつも半年ほどで育児に慣れてきた頃、

月齢がほぼ同じ子どものいる家庭に再留学した。子育ての楽しさや苦労を共有でき、非常に有意義な経験となった。

（受け入れ家庭）

- ・ 留学受け入れにより、自分たちの家庭の今後を考える機会となり、参加者から良い刺激を受けている。自身は専業主婦家庭で育ち、父親が家事をする姿を見た経験が少なかったため、義父が皿洗いをする姿に衝撃を受けた。自身の家庭では当たり前のことがよその家庭では当たり前ではない、ということを知る機会は貴重な経験だ。

【必要な取組・支援、有効なアイデアなど】

- ・ 子育て中、自治体の支援事業、特に倉敷市の子育て支援センターに助けられた。保健師や保育士が常駐し、子育ての悩み相談や他の親との交流を通じて、孤独になりがちな子育ての不安が解消され、励みになった。
- ・ 産後ケア事業や不妊治療への助成制度は当事者にならないと情報が届かない。妊娠や結婚、仕事（就職）などのライフステージを迎える若い世代へ、自治体の多様な事業情報が適切に届く仕組みが充実すれば、自身のライフデザインを立てやすくなると思う。
- ・ 妊娠中に接種することで、乳児の重症肺炎を防ぐ「アブリスボ」ワクチンの助成をお願いしたい。特に外出機会が増える2人目以降の妊婦を対象にしてほしい。
- ・ 乳幼児（0歳から5歳）へのインフルエンザワクチン接種の助成をお願いしたい。乳幼児は定期接種対象外で、通常2回接種が必要（1回3500～4000円）。
- ・ 外出先で男性が利用できるおむつ交換台の増設をお願いしたい。理想は多機能な赤ちゃんスペースだが、まずは男性が使えるおむつ交換台だけでも増やしてほしい。
- ・ 子育て支援策等の情報が広く知られていない。特にインターネット上では子育ての「大変さ」ばかりが強調され、前向きな情報が不足していると感じる。支援策で悩みが解決した事例をまとめたパンフレットを作成し、若い世代が結婚・出産を前向きに考えられるような情報提供をしてはどうか。
- ・ イギリスのサッカー観戦では、大学生程度まで子ども料金が適用されるなど、子どもに配慮した料金体系だった。日本も子ども料金の対象年齢を広げるなど、子どもの価値を再認識する社会的な価値観を持つべきだ。
- ・ 母子（親子）手帳交付時に、保健所で信頼できる支援情報（パンフレットなど）を提供してはどうか。
- ・ 育児が始まると情報収集の余裕がなくなるため、比較的ゆとりのある妊娠期に、保健所で両親（第三者も含む）向けのセミナーを開催し、今後のライフデザインを考えるきっかけとしてはどうか。
- ・ 男性の育休取得促進には、個別の企業努力だけでなく、行政が育休取得を後押しする施策を講じることで、企業がより育休制度に取り組みやすくなるのではないか。

【参加者感想】

- ・ 子育ては幸せで楽しい反面、時には「もう無理」と感じるほど大変である。今回、いろいろな方の子育て話や知事の話聞き、自身も前向きな気持ちになれた。
- ・ 子どもとの向き合い方や理解度を高めるために参加した。東京から岡山県に来て2年だが、岡山県の子育て支援は非常に充実していると感じる。

- ・ 子どもが生まれて岡山県に来て１年半経つ。もし東京に住んでいたら、この距離感でイベントに参加するような子育て環境は想像しにくい。岡山県は子育てしやすいと実感しながら生活している。

【まとめ】

子育ては大変な側面もあるが、それ以上に充実感や素晴らしい体験があり、命が次世代に繋がる「幸せの源」である。世間の結婚に対するネガティブなイメージを払拭し、その本来の良さ、多くの人を感じるであろう「素晴らしいもの」としての価値をしっかりと伝えていきたい。

これからも「子育てしやすい岡山県」「子どもがたくさん生まれる岡山県」でありたいと思っているので、引き続き協力をお願いしてまいりたい。